

三菱重工 業務用除湿機

UDP5W2

仕 様 書

添付図面

- 1. ユニット外形図
室内機（プレナムチャンバ付）・・・LRJ000Z074
室内機・・・・・・・・・・・・・・LRJ000Z084
プレナムチャンバ・・・・・・・・・・LRJ000Z095
- 2. 冷媒系統図・・・・・・・・・・・・LRJ000Z098
- 3. 電気回路図・・・・・・・・・・・・LRJ000Z107

特別配布先	
1	A,M,1
2	" "
3	" "
4	" "
5	" "
6	" "
7	" "
8	" "
9	" "

日付 2019年 3月 29日

認可	担当	⑤
坪 野	村 上	佐 々 木 越 野



△ PL-C 0121 19.04.09 佐々木

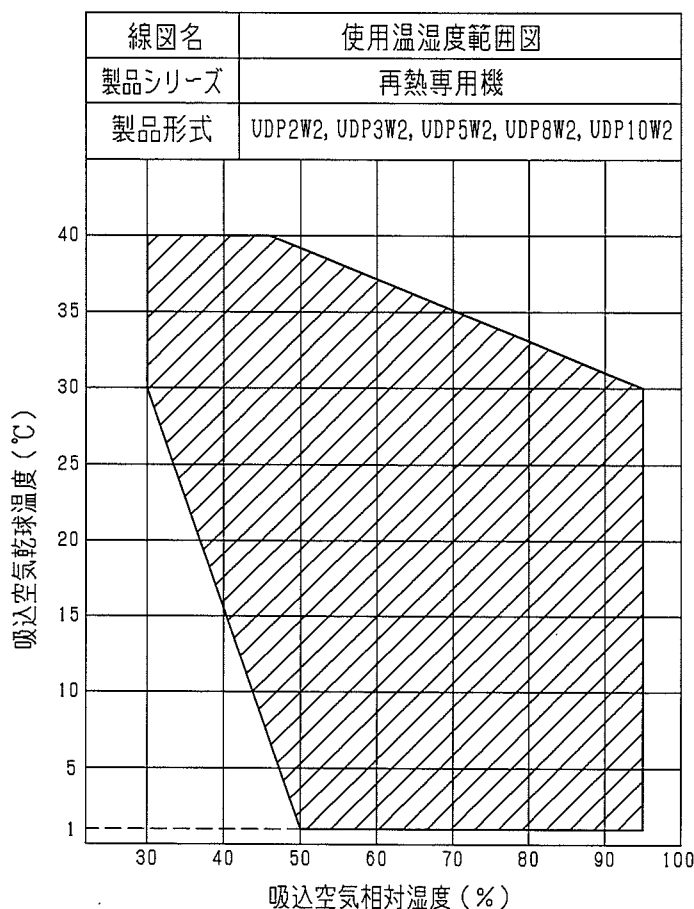
仕様書番号	訂 符	葉別	配布先	葉別サイズ
ESP-PL-7218	△ A	1 / 5	PX	A4=1-5

要目表

項目（単位）			形式	UDP5W2	
電 源				三相 200V 50/60Hz	
法定冷凍能力			トン	1.49/1.79	
再熱除湿性能	除湿能力		L/h	14.0/16.0	
	空気条件			吸込空気乾球温度25℃, 相対湿度80%	
	電気特性	消費電力	kW	3.7/4.8	
		運転電流	A	13.1/15.1	
		力 率	%	82/92	
		始動電流（終了最大）	A	138/124	
騒音値			dB	59	
外 装（マンセル記号）				ナチュラルグレー（1.0Y 8.5/0.5）	
外形寸法（幅×奥行×高さ）			mm	800×500×（1700+45）	
梱包寸法（幅×奥行×高さ）			mm	830×540×1790	
冷 却 装 置	圧縮機	形 式		E505DH-49A2	
		出 力（極数）	kW	3.75（2）	
		冷凍機油	種 類		FVC68D
			メーカー		出光興産
			封入量	L	1.50
	クランクケースヒーター出力		W	40	
	蒸発器			多通路クロスフィン	
	凝縮器			多通路クロスフィン	
	冷媒封入量		kg	2.8	
	冷 媒			HFC（R410A）	
	冷媒制御装置			電子制御膨張弁	
	送風装置	形式×台数			両吸込多翼送風機×1
風 量		m³/min	44		
機外静圧		Pa	20/120		
電動機出力（極数）		kW	0.55（4）		
電 源			三相 200V 50/60Hz		
エアフィルター			ロングライフフィルタ（PPハニカム濾材）		
空気湿度調整装置			電子式湿度調節器		
保護装置作動値	表示灯（緑）			運転一点灯, 警報一点滅	
	高圧遮断装置（OFF/ON）		MPa	4.15/3.20	
	圧縮機電流センサー設定値		A	34	
	送風機用過電流継電器		A	2.8	
	送風機プロテクター		℃	-	
	吐出ガス過熱防止サーモ		℃	127	
	操作回路用ヒューズ		A	5	
	動力用ヒューズ（圧縮機）		A	30	
除霜装置	除霜方式			ホットガスバイパス	
	除霜条件	最短除霜周期	min	30（15～60可変, 5刻み）	
		最長除霜周期	min	15（5～30可変, 5刻み）	
		除霜開始温度	℃	-15（蒸発器出口配管表面）	
		除霜終了温度	℃	10（蒸発器出口配管表面）	
ドレン配管				R1（PT1おす）	
製品質量			kg	165	
梱包質量			kg	167	

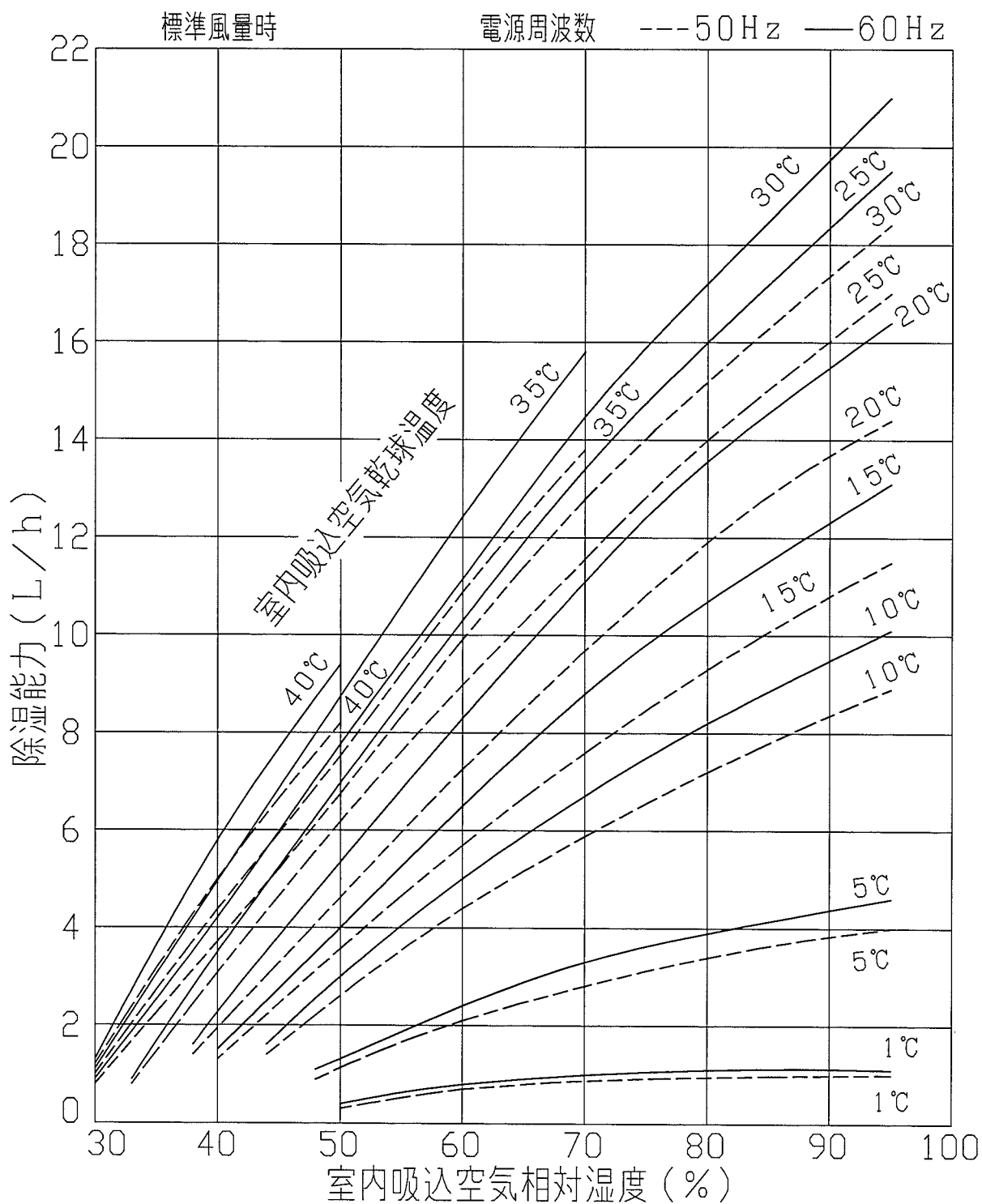
- 注) 1. 再熱除湿性能および電気特性は、吸込空気乾球温度25℃, 相対湿度80%で運転した場合の値を示します。
 2. 電気工事の際は電気特性の1.2倍程度を見込んでください。
 3. 騒音値は、製品正面1m、高さ1mで反響の少ない無響室で測定した値 (Aスケール) を示します。
 実際の据付状態では周囲の騒音や反響の影響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
 4. 再熱除湿運転を行なうと吹出空気温度が吸込空気より高くなります。運転状態によっても異なりますが、約10~25℃上昇します。温度上昇が問題となる場合は、別途冷房や換気を考慮してください。

使用範囲



- 注) 1. 運転範囲を外れた場合、送風運転に切り換わる場合があります。
2. 再熱除湿運転を行なうと吹出空気温度が吸込空気温度より高くなります。
 運転状態によっても異なりますが、約10～25℃上昇します。
 温度上昇が問題となる場合は、別途冷房や換気を考慮してください。
3. 本ユニットは吸込空気温度が低下すると着霜することがあります。
 この場合、除霜運転と除湿運転を交互に行ないますので、除湿運転時間が減少し、除湿量が低下しますのでご使用に際し注意してください。
4. 5℃以下での連続運転は2時間程度としてください。
 長時間の低温連続運転を行ないますと、熱交換器へ異常に霜が付着する場合があります。
5. ユニット内の湿度調節器本体の誤差は相対湿度45%の設定値の時で±5%、ON/OFFのデファレンシャルで5%あります。さらに、ユニット内への組込み具合などを含めると精密な温度制御は難しいので、湿度設定値は一応の目安程度とお考えください。
6. 木材、薬品などの、特殊な雰囲気など次のような場所での使用および設置はしないでください。
 多くの場合ユニットが故障する原因となります。
- ・油（機械油も含む）や粉末などの飛沫・蒸気の多い場所
 - ・温泉地などの硫化ガスの多い場所
 - ・可燃性ガス発生・流入などの恐れがある場所
 - ・海岸地帯の塩分の多い場所
 - ・酸性又はアルカリ性の雰囲気の場所
 - ・雨風が侵入するような場所（室内ユニットは屋内設置専用機です。）
 - ・カーボン繊維や金属粉が浮遊する場所。
 - ・煙突の煙がかかる場所。
 - ・標高1,000m以上の場所。

除湿能力曲線



送風機特性曲線

